



【特集】

技 築約八十年の古民家に現代的な快適空間を ～良さを活かしてリフォーム～

●夏涼しく、冬暖かい家を

飛騨古川の市街地に佇むF邸は、昭和初期に建てられた趣のある古民家。昔の雰囲気を残しつつ、快適に生活できるよう、玄関、リビング、ダイニング、キッチン、浴室をリフォームした。「三人の子どもも独立し、夫婦二人が老後も安心して暮らせるように、使い勝手のいい、暖かな家というのが希望でした」とFさんご夫婦。

飛騨の山々に囲まれたこのあたりは冬場、雪がメートル以上も積もり、昨シーズンは三回も屋根の雪を降ろしたという。



▲屋根の傾斜に合わせた勾配天井が目を引くダイニング。間接照明の柔らかな光が落ち着いた雰囲気を醸す。



▲畳敷きに和箆笥と、和のしつらえが印象的な玄関。



▲飾り棚も素敵。



▲リビングには座り心地のよいチェア。壁面を利用したクローゼットは、奥の座敷からも開けられる便利な設計。



▲対面式のキッチンで、ご主人との会話も弾む。



▲脱衣室には、洗いのものに便利な深めのシンク。



▲最新のユニットバスで心身を癒せそう。

●和のしつらえが魅力の玄関

室内を拝見すると、玄関は漆喰の壁に飾り棚が和の情緒を演出する粋な空間。奥の部屋との境が障子戸だったのを、漆喰の壁にしたことで雰囲気さがらりと変わったという。補強した床に畳を敷

き、和箆笥を置いたミニギヤラリー風のしつらえも印象的。訪問者をあたたかく迎えてくれる。

和箆笥は、

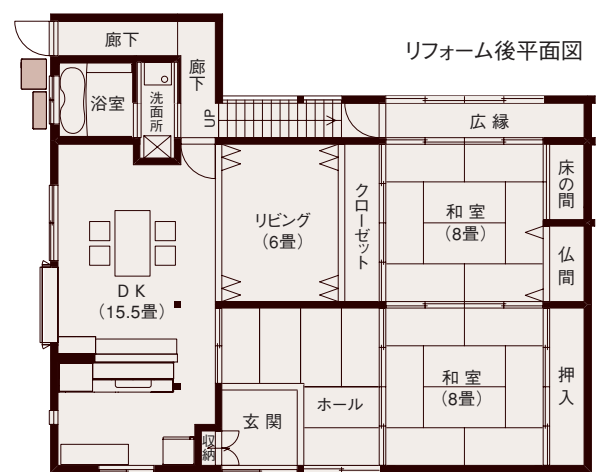


▲テレビ台を兼ねた木の和箆笥。

●広々としたLDKで 寛ぎの時間

玄関から奥に入ると、リビング、ダイニング、キッチンと合わせて二十畳以上の空間が広がる。以前は真ん中に廊下があり、和室とキッチンの空間がそれぞれ独立していたが、フローリングのワンフロアにする

ことで、開放感あふれる空間に仕上がった。ダイニングとリビングの間にはアコーディオン型の間仕切りがあり、用途によって使い分けられるようになっていたことも大きな特徴だ。

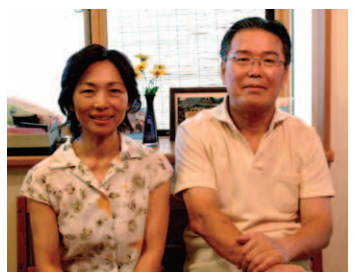


「オープンな空間と対面式のキッチンが夢でした。IHクッキングヒーターや食洗器も使い勝手がいいですね。オール電化にして、電気温水器を採用しました。深夜電力を使っているため、電気代も安く助かっています」と奥様も満足そう。

元々の天井を外し、梁見せの勾配天井にしたことでより広々とした空間になった。梁と柱が木の温もりを感じさせ、落ち着いた雰囲気を醸し出してくれるのもいい。「柱や梁など、骨組みがしっかりしていたので、これを活かさない手はないと思いました。家の良さを発見し、残せるものを活かせるものは上手に活かすことがリフォームでは大切ですね」と天井を見上げる担当者。リビングの壁面は全面クローゼットで、奥の座敷の押し入れからも物を出し入れできる構造になっている。使い勝手がよく、設計者のアイデアが冴える。

築約八十年の家が醸し出す、古き良き雰囲気と現代感覚溢れる快適空間がマッチしたF邸。ご夫婦の人柄と感が伝わってくる素敵な住まいだ。

今月のオーナー訪問



岐阜県飛騨市 F様

『老後も安心して暮らせるように』

親戚が自宅を新築し、内覧会に行ったところ、担当した建設会社と知り合いました。飛騨の風土に合った家、現代感覚溢れる家を手掛けていらっしゃるところが気に入り、リフォームをお願いしたんです。

完成後、子どもたちや親戚を呼んで、リビングとダイニングに祝いの席を設けたんですが、「違う家に来ているみたい」と皆が喜んでくれました。暖かく、快適になった住まいで夫婦水入らずの生活を楽しんでいきたいと思えます。



技のリフォーム

0120-183-304